



近世まで続いた。 地主小作の関係とも複雑に絡み合い はない。江戸期に入り、支配層が安定 年貢の納め先について、 の4氏に分割されており、おそらく の領主が志和氏、佐竹氏、西氏、東氏 らの出作(でさく・でづくり・しゅっ してからも、このような耕作形態は、 各地で見られ、 る。こういったケースは、中世の日本 いがあったのではないかと推察され 主と耕作地の領主との間で複雑な争 と考えられている。また、それら農地 さくと読む場合もある)地であった 屋の記載がない。これは、近隣の村か によれば、農地が八町七反あるが家 決して珍しいことで 居住地の領

がある辺りに「尾上の松」あるいは

相生の松」と呼ばれた、それはそれ

もまだ5戸、人口もわずか2人とあ 現れ始め、出作地の割合は少しずつ していたとは考えにくいので、 減少した。しかし、寛保年間(1741 配となった江戸期に入って居住者が 1743年)の記録によれば、戸数 浜ノ川の場合は、 すべての農地をこの人数で耕作 山内家による古 出作 真偽のほどは明らかではない。 松の幹が出土。それが相生の松では その時に直径1mはあろうかという り一帯は基盤整備されたのであるが ないかと考えられているのであるが た。平成17年(着工は10年)にこの辺 たしてどこに消えたのかが謎であっ 末までは存在したようであるが、は 241 川の街中から、仁井田方面に向 242 かう。国道56号の高知道・四万 十中央インター出入り口を過ぎ、ひ とつ坂越えた辺りからが浜の川であ る。東又方面から来る県道52号との る。東又方面から来る県道52号との を差点には瀟洒な住宅が建っていて ひときわ目を引く。浜ノ川には現在 ひときわ目を引く。浜ノ川には現在

地もそれなりには残っていたと考えられる。江戸期に入ってから居住者が現れたと書いたが、それによってが現れたと書いたが、それによってが現れたと書いたが、それによって実は居住者がまだ存在していない戦実は居住者がまだ存在していない戦戦国期より前は集落があったのかもしれないが、定かではない。



気付きにくいが、四万十町で 最も古いコンクリートの橋。 国道56号に架かっている。

(2月28日) 人口 前月比 出生 死亡 転入 転出 8,369 18 20 男 -11男 14 町のうごき 9,379 8 -8 2 15 17 女 女 計 17,748 -193 26 35 31 計 世帯数 8,606 (2月中の届出)

法師が詠んだといわれている歌の中

、この松が登場する。その松は幕

僧侶でもあり、

歌人でもあった西行

いう。平安時代末期の武士でもあり、いる。この松は一里塚でもあったとは立派な松の木があったと言われて

窪川地域 12,448人 大正地域 2,538人 十和地域 2,762人

四万十川の 水質状況

	適正値(mg/l) 3月12日
リン酸	≦ 1.0 測定範囲以下
硝 酸	≦ 0.5 0.397
アンモニウム	≦ 5.0 測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0 0.25
化学的酸素要求量	≦10.0 4.973
	調査:大正(吾川)

資料:四万十高校自然環境部

四万十町通信

2017.4月号 Vol.133(毎月10日発行) ●発行/四万十町企画課

●印刷/窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17 ☎ (0880) 22-3124

期・天正16年(1588年)の地検帳

浜ノ川の歴史を探ってみる。戦国